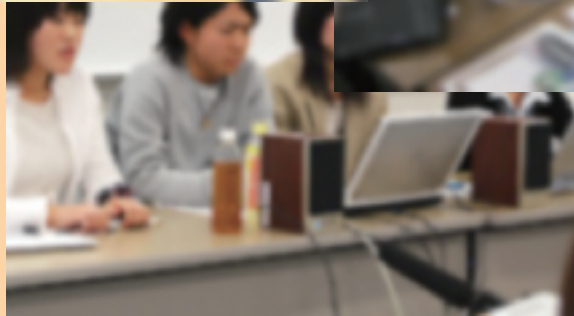




阪神・淡路大震災15周年記念事業
この事業は、「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。

第1回 防災・社会貢献ディベート大会



【論題】

自主防災組織の育成は 最も優先すべき防災対策である

- 日 時: 2010年3月22日(月・祝) 8:40~18:00(受付8:15~)
- 会 場: 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスB号館
- 主 催: 「第一回防災・社会貢献ディベート大会」実行委員会(構成団体: 神戸学院大学、兵庫県、神戸学院大学附属高等学校、兵庫県立舞子高等学校、有限会社イメージリンク、株式会社シー・ディー・シー・インターナショナル)
- 共 催: TKK3 大学連携プロジェクト(東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学)、ポーアイ4大学連携推進センター(神戸女子大学、兵庫医療大学、神戸女子短期大学、神戸学院大学)
- 技術・審査指導: 岡野勝志氏 株式会社 プロコンセプト研究所 代表取締役
- 運営・競技指導: 中田敬司氏 東亜大学医療学部准教授、神戸学院大学客員教授

2010年1月17日、私たちは阪神・淡路大震災から15周年を迎えます。震災の経験者には、他の地域や次の世代に対して、防災や減災について、あるいは災害時のボランティアなどの社会貢献活動のあり方や必要性について伝えていくことが求められています。

防災活動やボランティア活動においては、原則や指針はありますが、こうすればよいという正解はありません。従って、知識だけではなく、その場の状況に臨機応変に対応する思考力と判断力が求められます。言い換えれば、防災や社会貢献について、知識を得るだけではなく、それを日常的に意識し、多くの人と意見を交えることで高め合うことが必要なのです。

この度、その機会の一つとすべく、防災や社会貢献をテーマとした教育ディベート大会を開催します。当大会では、ディベートを通して知識と意識を高めあうことで、広く社会に防災・社会貢献の意識を広めていくこと、更には市民や学生が交流することにより、防災・社会貢献に関するネットワーク構築に寄与することを目指します。



【第一回防災・社会貢献ディベート大会を応援しています】

生者と死者のほitori

● 笠原芳光 / 季村敏夫

―阪神大震災・記憶のための試み 私たちは、死者たちの沈黙に耳を傾けることなく、日常の中で忘れさろうとしているのではないだろうか。震災体験を深く想起するための試み。
¥1995

埋葬と亡霊

● 森茂起編

―トラウマ概念の再吟味 かつて埋葬されながら亡霊のごとく繰り返し甦り、われわれの生を決定するトラウマを多層的に把握する。
¥2625

花の命・人の命

● 斧谷彌守一編

―土と空が育む 日本人の感性はどのように変容していったのか？生命性の象徴である花をテーマに領域を超え様々な切り口で読み解く
¥2625

生きられる癒しの風景

● 浅野房世 / 高江洲義英

―園芸療法からミリユーセラピーへ 風景が人を包み込み、そして癒す。人が生きられる癒しの空間とは。風景と癒しの新しい学際論。
¥2625

国境を越える人権

● 荒巻裕

―アジアと結ぶ国際ボランティア 国際ボランティアを若者とともに実践する、アジアを肌で知る著者の熱いエールに満ちた書。
¥2415

貧困を救うのは、社会保障改革か、ベーシック・インカムか

● 橋木俊昭 / 山森亮

日本の論点！格差、貧困、福祉、労働など、いま日本において緊急かつ最重要の問題を巡る、二人の経済学者による充実の対談。
¥2100

ナースのための実践論文講座

● 松葉祥一

レポートなどの論理的文章の書き方、読み方を基礎の基礎から学ぶ実践的テキスト。注の付け方、段落と全体の構成など、丁寧に指導。
¥1365

臨床心理士の子育て相談

● 高石恭子

―悩めるママとパパに寄り添う48のアドバイス 臨床心理士である著者が、一人で悩みがちな問題に具体的に答える子育てQ&A。
¥1890

● プログラム

時 間	プ ロ グ ラ ム	会 場
08:40 ~ 08:55	開会式 ○開会あいさつ 岡田芳男 学長 ○ルール説明など 審査委員長 岡野勝志氏 ○予選リーグ 対戦表発表	○B301講義室
09:05 ~ 12:45	予選リーグ(A~D) ○各リーグ会場にて、選手・審査員紹介 ○第一試合(09:10 ~ 10:00) ○第二試合(10:05 ~ 10:55) ○第三試合(11:00 ~ 11:50) ○第四試合(11:55 ~ 12:45)	○予選リーグA B303演習室 ○予選リーグB B305演習室 ○予選リーグC B307演習室 ○予選リーグD B313演習室
12:45 ~ 13:30	昼食、休憩	
13:30 ~ 13:35	午後の部 開会あいさつ (前林清和 実行委員長)	○B301講義室
13:35 ~ 14:25	講演会 「災害に強い街づくり ~今私たちのなすべきこと~」 中田敬司氏(東亜大学医療学部准教授、 神戸学院大学客員教授)	
14:25 ~ 14:45	予選リーグ総評・判定、準決勝進出チーム発表 準決勝組み合わせ抽選	
15:00 ~ 16:05	準決勝	○B207講義室 ○B209講義室
16:20 ~ 17:25	決 勝	○B301講義室
17:25 ~ 17:35	決勝戦講評、大会総評 (審査委員長 岡野勝志氏)	
17:40 ~ 17:55	表彰式	
17:55 ~ 18:00	閉会あいさつ 実行委員 小山達也氏 (兵庫県企画県民部防災企画課 防災事業係長)	

● 講演会「災害に強い街づくり～今私たちがなすべきこと～」

今大会の趣旨に合わせ、準決勝の前に防災・社会貢献をテーマとした講演会を行います。

講演者 中田 敬司氏 (東亜大学医療学部准教授、神戸学院大学客員教授)

1959年愛媛県生まれ 広島市消防局航空・国際消防救助隊および(財)広島市防災センター指導課主事を歴任。国際緊急援助隊(JDR)医療チームとしてコロンビア・トルコ・台湾、さらにイラン・スリランカ各国の地震・津波災害救援活動に従事。

また07年ジャワ中部地震事後調査、08年フィリピン災害医療援助スタディツアーを企画運営する。現在、日本医科大学大学院医学研究科博士課程で災害医療分野の研究活動中。専門は、「防災・災害医療・労働安全衛生」分野。



● ディベートについて

ある論題について異なる立場に分かれて討論することをディベート(debate)と呼び、近年わが国でも様々な教育目的のために行う教育ディベート(academic debate)が盛んになっています。多くの場合、教育ディベートは今大会のように競技ディベート(competitive debate)として行われます。

競技ディベートの目的は、単に討論者の優劣や勝ち負けを争うのではなく、討論に向けて準備し、実際に討論し、討論の経緯を振り返るという一連の過程を通して、参加者全員が与えられたテーマに対してより深い理解を得ることにあります。

● 今大会の方針とルール

第1回防災・社会貢献ディベート大会は、「自主防災組織の育成は最も優先すべき防災対策である」という論題について多くの社会人・大学生・高校生チームがその説得力を競い合います。

今回参加する16チームはまず4つのグループに分かれ、各チーム2回対戦を行います。各グループの1位になったチーム(4チーム)が準決勝へ、準決勝の勝者が決勝へ進み優勝チームを決めます。

競技は通常の教育ディベートのルールに則って行います。審査には、競技・審査経験の豊富な企業経営者の方々に当たって頂きます。また、競技としてのディベートとは別に、ユニークな「防災・社会貢献」の論点やエビデンスを取り上げ、著しい貢献のあったチームに対して、実行委員長から特別賞を贈呈します。

● 参加チーム紹介 (1/2ページ)

チーム① BODY (神戸学院大学 金芳ゼミ)

神戸学院大学防災社会貢献ユニット2回生で防災を学んでおり、ゼミでの実習や体験をととして得た被災地神戸の教訓をベースにしてチームの結束を強めています。このたびの大会の参加を楽しんでいます。



チーム② front of WOODz / 略:WOODz (神戸学院大学 前林ゼミ)

我々はチーム一丸となって"あるモノ"を狙っています。
賞金?違います。 名誉?違います。
「勝つこと」。ただそれだけが我々に残された選択肢なのだから。
欲しがりません。勝つまでは!



チーム③ 船木ゼミチーム (神戸学院大学 船木ゼミ)

我が船木ゼミチームは、船木先生直伝の明るさが売りのチームです。悲しい時には涙を流し、嬉しい時にはみんなで喜び合うという、喜怒哀楽を極めたチームともいえます。私たちは、ディベート大会でさらなる飛躍を目指します。また、チームが一丸となり優勝を目指して、皆で勝利の涙を流します。焼き肉食うぞ~!!



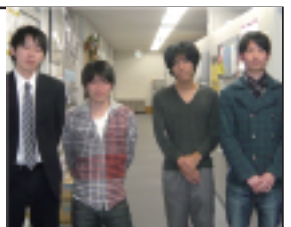
チーム④ チーム関大 (関西大学)

舞子高校環境防災科を卒業後、それぞれの夢を持って、関西大学へ。高校3年間で学んだ防災+大学生になった私たちが学んだ防災を糧に、今回のディベートでよい成績を修めたいと思います。精一杯がんばりますので、応援よろしくお祈りします!!



チーム⑤ 久田研・村上研合同チーム (工学院大学)

私たちのチームは、建築学科3年生によるメンバーで、現在建物や都市における防災・減災を勉強・研究しています。これまで3年間に学んだ建物・都市に関する知識や、さらに地域の防災訓練を通じて学んだことを活かしてチーム一丸となって頑張りたいと思います。



チーム⑥ 東亜大学L i f eチーム (東亜大学)

私たち東亜大学救急救命L I F Eチームは「仲間を思いやる気持ち」「絆」はどここのチームにも負けません。今日のために練習で失敗しプライドが打ち砕かれたときに支えてくれたのが「仲間」「先生」でした。今まで支えてくれた方々に感謝の気持ちを忘れずに今日は今まで培ってきたその思いをすべてぶつけ「優勝」を目指します。



チーム⑦ 東北福祉大チーム (東北福祉大学)

私たちはサークルやゼミを通じて"減災"を学んでいるチームです。救命技術や知識を持ち、減災ボランティアやイベントに参加し、一人一人の成長へつなげています。今回は今までの知識・経験を生かし、悔いの残らないよう精一杯頑張ります。



チーム⑧ TKK連合チーム (東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学)

東北福祉大学と工学院大学、神戸学院大学の3大学からなる連合チームです。3大学でそれぞれの専門分野は異なります。そこで各大学の独自の特性や強みを活かし、その知識と経験を協調・集約させ、今回の防災・社会貢献ディベート大会に臨みます。



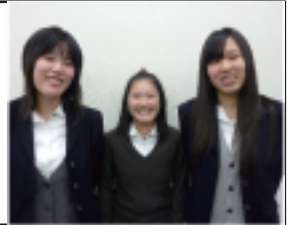
チーム⑨ チャレンジ(神戸ポーアイ学生チャレンジショップ)

私たちチャレンジは日ごろ、神戸学院大学のある神戸市中央区のポートアイランドの活性化を目指し活動しています。ゴミ拾いなどの、ボランティア事業から、地元企業とのイベント開催など学生主体で行っています。今回は、防災についてのディベートなので、学ぶことが多いと思いますが、印象に残るチームになれるように頑張ります。



チーム⑩ ちーむカンボラ(神戸学院大学附属高等学校)

私たちカンボジアボランティア部は、カンボジアの子供たちの識字率を高めるために絵本を作り、現地へ送ったり、募金活動なども行っています。昨年の11月には奈良で行われたアジアの水問題について話し合うユースサミットにも参加しました。今回のディベート大会では防災について多くの知識を身につけ、それを多くの人に伝えていきたいです。



チーム⑪ 佐用高校生徒会(兵庫県立佐用高等学校)

こんにちは。兵庫県立佐用高等学校生徒会です。私たちが通う佐用町では、昨年8月の豪雨災害によって、死者18名、行方不明者2名をだすなど、壊滅的な被害を受けました。こうしたディベート大会は初めての体験ですが、義援金活動などのボランティア活動を通じて学んだことを意見できたらと考えています。よろしくごお願い致します。



チーム⑫ 滝川第二高等学校インターアクトクラブ(滝川第二高等学校)

滝川第二高等学校インターアクトクラブは、神戸西神ロータリークラブのご支援のもと、奉仕活動と国際交流を活動の二本柱としています。多様な観点から広く社会貢献に取り組む意味からも、今回開催される防災・社会貢献ディベート大会に是非とも参加したいと考え、エントリーしました。どうぞよろしくお願いいたします。



チーム⑬ 都市工学科(滋賀県立彦根工業高等学校)

私たちは、地域住民や小学生らと一緒に災害時の避難場所に「かまどベンチ」を製作し、防災設備を形として残すとともに、「かまどベンチ」を使った炊き出し訓練を行うなど、地域とのコミュニケーションをより一層深める取組みをしています。ものづくりを中心とした活動で、これまでディベートなどの経験はなく初挑戦です。よろしくお願いいたします。



チーム⑭ MAIKO GIRLS(兵庫県立舞子高等学校)

ボランティアやイベントに参加するのが大好きな、環境防災科の仲良し4人組です。学校の周辺の防災福祉コミュニティの訓練や、西区竹の台の地域防災にも参加して、実地で勉強しています。



チーム⑮ RARA PROJECT MAIKO(兵庫県立舞子高等学校)

環境防災科3年生(卒業しました!)の仲良し4人組です。3年間の活動実績と明るさで勝負します。



チーム⑯ 広島四季が丘自主防災チーム(四季が丘自主防災連絡協議会)

四季が丘は広島県西部の廿日市市にある新興団地で、11町内・約2,100世帯、6,900人が居住しています。自主防災活動は平成16年5月に立ち上げた四季が丘地区自主防災連絡協議会が中心となって「自分達の地域は自分達で守る」をモットーに地域防災力の向上に努めてきました。チームはこの協議会の主要メンバーで構成しました。



子ども学講座 【全5巻】



林邦雄・谷田貝公昭 ◆ 監修

A5判 / 並製 / 定価1,890円(税込)



今日最大のテーマの一つ「子育て」。子どもが巻き込まれる多くの事件や事故等が世間の耳目を集め、議論が絶えないが、そこには少なからず混乱も見受けられる。そうした時代だからこそ、子どもの置かれている状況を正しく理解し捉えることが求められている。

本講座では、子どもを中心に据え、子どもを取り巻く現状やあるべき姿について5巻構成で論述する。保育関係者、保育者養成課程の学生にとっては必読の書であり、時宜を得た「子育て」研究書である。



1 子どもと生活

西方毅・本間玖美子 ◆ 編著



2 子どもと文化

村越晃・今井田道子・小菅知三 ◆ 編著

3 子どもと環境

前林清和・嶋崎博嗣 ◆ 編著



4 子どもと福祉

高玉和子・高橋弥生 ◆ 編著

5 子どもと教育

中野由美子・大沢裕 ◆ 編著



株式会社 **一藝社**

〒160-0012 新宿区新宿1-6-11 info@ichigeisha.co.jp

Tel. 03-5312-8890 Fax. 03-5312-8895

Win-Winの社会をめざして

前林清和 著 Win-Winの社会を実現するための社会貢献の多面的考察を試みる。 ◆ 二三一〇円

地域スポーツクラブ指導者ハンドブック

二杉茂・藤井一成 他 著 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などで指導する人のためのハンドブック。 ◆ 一八九〇円

災害報道

三枝博行・藪田正弘 他 著 「報道する側」の立場に立って、災害報道のあり方について考える。 ◆ 一六八〇円

苦闘元の街に住みたいんや!

中山久憲 著 神戸市湊川町における震災からの復興まちづくりの苦労と熱意の過程をたどった「復興誌」。 ◆ 二四一五円

ローマに学ぶ防災都市の条件

金芳外城雄 著 阪神大震災で大きく転換を迫られた防災体制について、防災行政学を多様な観点から考察する。 ◆ 二一〇〇円

夢みる防災教育

矢守克也・諏訪清二・船木伸江 著 防災教育の重要性をユニークな構成でわかりやすく解説し、子どもたちの夢の実現に力を与える一書。 ◆ 二九四〇円

神戸を読む

藤井康生 著 災害都市としての二面を持ち、へ華やかさとへはかなさが表裏一体をなす都市・神戸を浮かび上がらせる。 ◆ 二四一五円

ボランティアと市民社会 増補版

立木茂雄 編著 ボランティア・マネジメントとその実際にまで言及し、ボランティアを総合的に論じた画期的な書。 ◆ 二七三〇円

率先市民主義

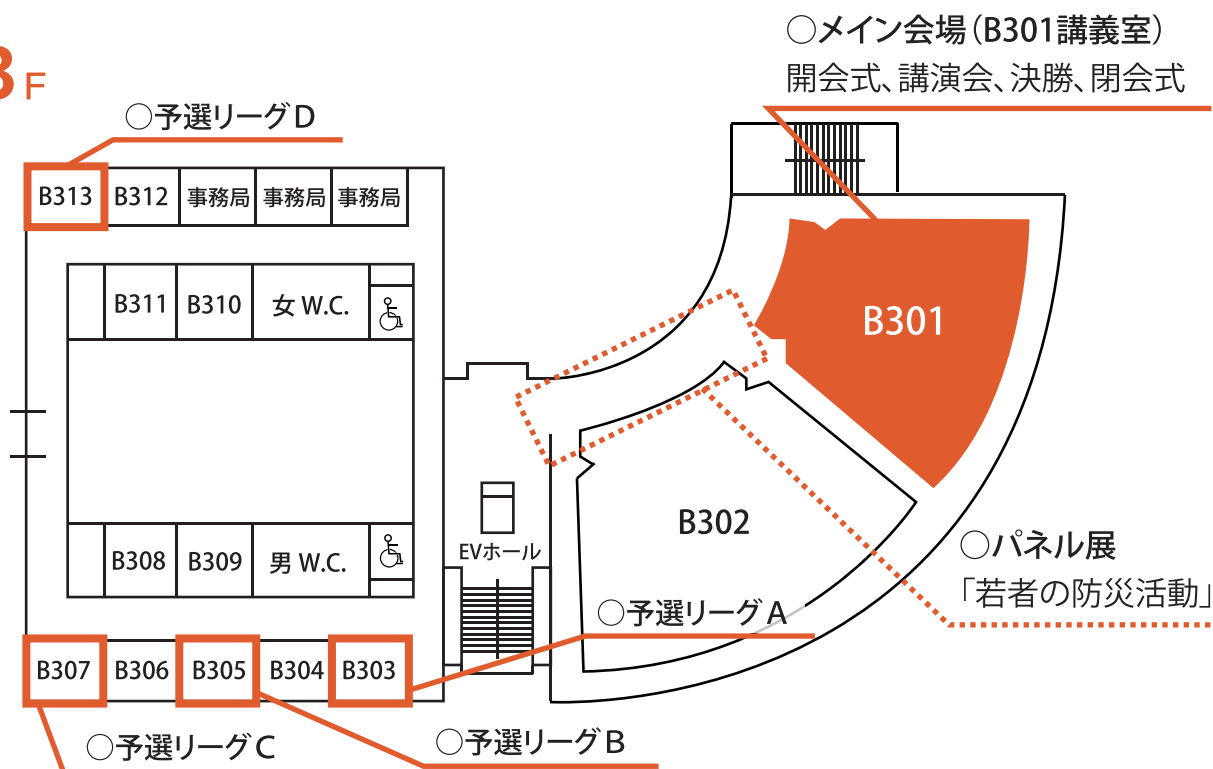
林 春男 著 災害現場のフィールドワークから防災ボランティアの問題点を分かりやすく説明していく「ボランティアの時代」待望の書。 ◆ 一四七〇円

チャンピオンズポーツの人間学

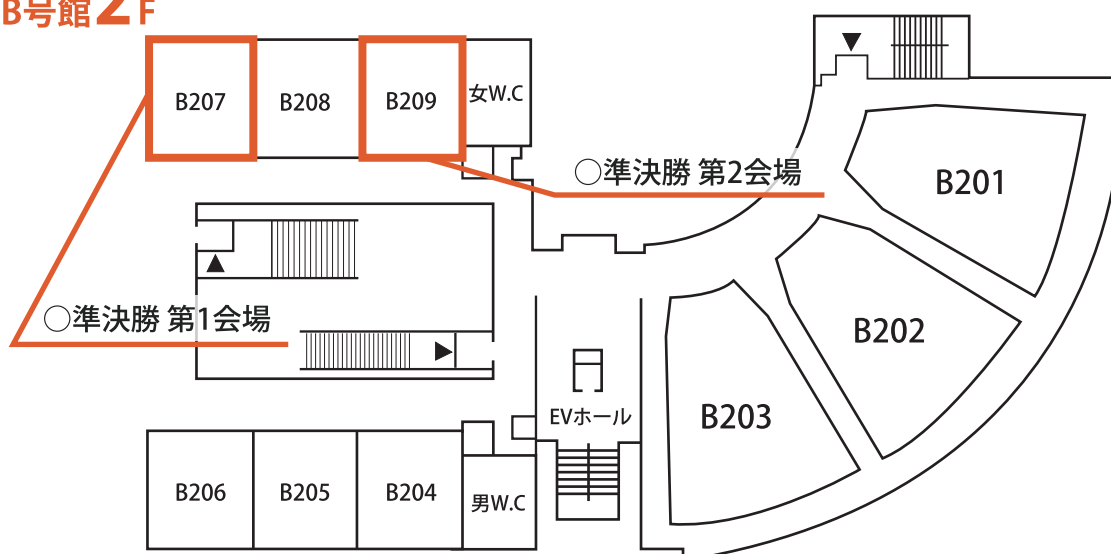
上谷聡子 著 女子駅伝における人間形成と競技力向上についての考察。 ◆ 二三一〇円

● 会場のご案内

B号館 3F



B号館 2F



- 協 賛： 特定非営利活動法人 映像記録、有限会社 新進堂印刷所、株式会社 アマノ、株式会社一藝社、株式会社晃洋書房、株式会社人文書院
- 後 援： アジア防災センター、国際復興支援プラットフォーム、財団法人兵庫県国際交流協会、阪神淡路大震災記念人と防災未来センター、JICA兵庫、朝日新聞社、共同通信社神戸支局、神戸新聞社、産経新聞神戸総局、時事通信社、日本経済新聞社神戸支社、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、サンテレビジョン、NHK神戸放送局、株式会社エフエムわいわい、株式会社ラジオ関西、CODE海外災害援助市民センター、NGO活動教育研究センター